

2022. 8. 28 (日) 使徒3:22~26

3:22 モーセはこう言いました。『あなたがたの神、主は、あなたがたの同胞の中から、私のような一人の預言者をあなたがたのために起こされる。彼があなたがたに告げることをすべてに聞き従わなければならない。』

3:23 その預言者に聞き従わない者はだれでも、自分の民から断ち切られる。』

3:24 また、サムエルをはじめ、彼に続いて語った預言者たちもみな、今の時について告げ知らせました。

3:25 あなたがたは預言者たちの子であり、契約の子です。この契約は、神がアブラハムに『あなたの子孫によって、地のすべての民族は祝福を受けるようになる』と言って、あなたがたの父祖たちと結ばれたものです。

3:26 神はまず、そのしもべを立てて、あなたがたに遣わされました。その方が、あなたがた一人ひとりを悪から立ち返らせて、祝福にあずからせてくださるのです。』

<説教>

五旬節（ペンテコステ）の日に起こった聖霊降臨をとおしてエルサレムに初代キリスト教会が誕生しました。その初代教会に神がお立てになった使徒ペテロがイスラエルの民に向かって語った二回目の説教を私たちも聴いています。一回目は聖霊降臨のその日に語られたもので、2章に記されていました。二回目はその後日、エルサレムの神殿で、生まれつき足の不自由な人がイエス・キリストの名によって立ち上がらされたことをきっかけとして語られたものでした。ペテロを始めとした使徒たちが信じ、また生まれつき足の不自由な人が信じたイエス・キリストは、イスラエルの民によって十字架につけられて殺されましたが神によってよみがえらされたお方、苦難と栄光の主でした。ペテロたちはこのイエスこそは神が約束しておられた救い主、メシヤ（キリスト）だと確信して、そのことをイスラエルの民に証し（証言）し、宣べ伝え始めました。

ペテロはその説教の中で、聖霊降臨にせよイエスの十字架の死にせよ復活にせよ、それらはすべて神が預言者を通して予めお語りになっていたことをその通りに実現なさったのだと言ってきました。その預言者として神がお用いになった人物としてペテロは、一回目ではヨエルとダビデの名を挙げました。そして二回目の説教でも「神はすべての預言者たちの口を通してあらかじめ告げておられたこと、すなわち、キリストの受難をこのように実現されました。」(3:18)と語り、また「このイエスは、神が昔からその聖なる預言者たちの口を通して語られた、万物が改まる時まで、天にとどまっていなければいなければなりません。」(21)と、やはり預言者のことを言うのです。預言者とは「神が…語られ」る（どこまでも神が主語であり、主体である）ために神が「その口を」お用いになる「神のものである」「神に属する」預言者です。それが「聖なる」預言者ということです。神のことばを神から預かる者が預言者です。預言者の使命は、神が言われたとおりにそのまま、神の代理人、代言人、神と人の仲介者として人間の顔色をうかがうことなく、人間を恐れずに神のみこころ、御意思を語ることです。そういう預言者たちの口を通して神は約束のキリストであるイエスの到来をイスラエルの民に昔から語って来られたのでした(21)。

そういう神の預言者として、ペテロは今の二回目の説教でモーセの名を挙げます

(22,23)。22 節は申命記 18:15、23 節は同じく 18:19（それにレビ記 23:29 を併せた）の引用です。モーセと言えば、神に召されてイスラエルの民をエジプトの奴隷から解放し、また神の律法を受けてイスラエルの民に授けるといふ大きな働きをした人です。「モーセのような預言者は、もう再びイスラエルには起こらなかった。彼は、主が顔と顔を合わせて選び出したのであった。」（申命記 34:10）と書かれています。それほどのモーセの預言ですからイスラエルの民は心して聞かなければなりませんでした。もっとも、モーセの預言の重要性はイエスご自身がもうすでにペテロたちに教えておられたことでした。「ラザロと金持ち」の話ではアブラハムの言葉として「彼らにはモーセと預言者がいる。その言うことを聞くがよい。」（ルカ 16:29）、「モーセと預言者たちに耳を傾けないなら、たとえ、だれかが死人の中から生き返っても、彼らは聞き入れはしない。」（同 16:31）と言われました。またエマオの途上の弟子たちにも〈モーセやすべての預言者たちから始めて、ご自分について聖書全体に書いてあることを彼らに解き明かされた〉（ルカ 24:27）のでした。また、イスラエルの民にこうも言っておられました。「わたしが、父の前にあなたがたを訴えると思つてはなりません。あなたがたを訴えるのは、あなたがたが望みを置いているモーセです。もしも、あなたがたがモーセを信じているのなら、わたしを信じたはずです。モーセが書いたのはわたしのことなのですから。しかし、モーセが書いたものをあなたがたが信じていないのなら、どうしてわたしのことばを信じるのでしょうか。」（ヨハネ 5:45-47）こういったイエスのみことばを、聖霊がペテロたちに思い起こさせたのです。ペテロたちにモーセの言葉、預言を思い起こさせ、改めて学ばせ、モーセがイエス・キリストのことを言っているのだと示し、確信させたのです。「しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。」（ヨハネ 14:26）とイエスが言われたとおりでした。モーセの預言、証言は、イスラエルの民は異教の民、異邦人とは違って占いや魔術や様々な迷信によってではなく、神のことばによって神のみこころを知るべきであり、そのために神のみことばを忠実に受けて人々に伝え、神のみこころを忠実に言う預言者を神はお立てになり、お遣わしになる、ということでした。イエスこそはまさに完璧にそういうお方でした。神の御子としてはもちろん、人（ことに「同胞」ユダヤ人）としても神と特別に親密で、神と人との仲介役として神から遣わされ、立てられたお方です。モーセの預言はイエスによって完全に実現したのですからイスラエルの民は「その預言者」イエスに聞き従わなければなりませんでした。

続けてペテロはモーセに続く預言者とされていたサムエルの名も挙げ、イエスが言われたとおりに、モーセやすべての預言者たちがイエスのことを告げ知らせたと証しました（24）。だから「あなたがた」イスラエルの民は預言者が語る神のことばによって（それはもやはイエス・キリストのことでもあります）、養われる「預言者たちの子」だと言うのです（25）。そして更に神がアブラハムになさった約束を受け継いでいる「契約の子」だと言います（25）。神がアブラハムに言われた「あなたの子孫」とはイエス・キリストのことだと言うのです。これは使徒パウロも後に「約束は、アブラハムとその子孫に告げられました。神は、『子孫たちに』と言って多数を指すことなく、一人を指して「あなたの子孫に」と言っておられます。それはキリストのことです。」（ガラテヤ 3:16）と言っているとおりにです。

最後にペテロは「神はまず、そのしもべを立てて、あなたがたに遣わされました。その方が、あなたがた一人ひとりを悪から立ち返らせて、祝福にあずからせてくださるのです。」(26)と言いました。「そのしもべ」とはもちろんイエスのことです(13)。神がイエスをイスラエルの民の同胞としてお遣わしになりました。イエスが神に従ってこの地上に人として来られ、十字架の死と復活を成し遂げられたとき、それまで神の民としていわば埋もれていたイスラエルの民「一人ひとり」が起き上がり、「悪から立ち返」り、「祝福にあずか」ったのです。それがまずはペテロを始めとした使徒たち、その他のイエスの弟子たちでした。それが「その方」すなわち彼らの罪のために十字架で死なれ復活し、生きて働いておられるイエス・キリストの力だったのです。

そのように、アブラハム、モーセ、サムエル、ダビデ、ヨエルその他多くの預言者の口を通してお語りになった神の約束を真実なものとするお方が、まずイスラエルの民に遣わされ、その福音が今や私たちにも伝えられ、私たちも信じて悪から神に立ち返り、祝福に与らせていただいているお方、イエス・キリストなのです。